

山形県立上山明新館高等学校 令和2年度 学校評価書

学校 教育 目標	(1) 心身ともに健康で、豊かな情操を持つ人間を育成する。
	(2) 真理を求め、責任を重んじ、社会の変化に対応してたくましく行動できる人間を育成する。
	(3) 創造力に富み、自ら考え、主体的に学ぶ意欲と豊かな知性を持つ人間を育成する。
	(4) 国際的な視野を持ち、郷土を愛し、社会に奉仕し貢献できる人間を育成する。

重点 目標	【1】 「いのちの教育」の推進と規範意識・主権者の自覚を醸成
	【2】 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成
	【3】 地域と係わり、地域の期待に応える学校づくり

- 業務について
⇒ 正確 スピード 情報共有
- 生徒について
⇒ 愛情 安全
- 職場について
⇒ 健康 思いやり 率先

学校 経営 方針	(1) 開校当初の基本理念「時代の進展に対応し、21世紀の社会を積極的に切り開き、心豊かでたくましい人間の育成」を踏まえ、人間力に満ちあふれ、未来をひらく人を育てる。
	(2) 生徒の個性や能力を尊重するとともに、生徒自身が可能性に線を引きかない指導を行う。
	(3) 広い視野と高い志を持ち続け、地域から世界まで、グローバルな課題解決と高価値の創造に挑戦する人を育てる。
	(4) 高い倫理観と規範意識を身に付けさせ、あらゆる危機に迅速・的確・効果的に対応できる能力を持つ人を育てる。
	(5) 心身の健康を第一に考え、社会全体が目指す働き方改革の理念を共有し、ゆとりを創造できる人を育てる。

< 評価基準 A: 達成 B: 概ね達成 C: やや不十分 D: 不十分 >

重点目標	項目	評価項目・具体的目標	R2評価	次年度に向けた課題と改善策	学校関係者評価(令和2年度)
【1】	1 互いのいのちを尊重する ① 全ての生徒に自尊感情と自己有用感を ② 自分との違いを認め相手を理解する寛さを	・生徒に寄り添う丁寧な面談の実施 ・生徒受診率及び教職員精密検査受診率100%達成 ・年3回のいじめ発見アンケートに伴う確実な生徒ケア	① B ② B	・定期的面談の実施 ・担任学年団と生徒指導課の更なる連携強化を図る	<重点及び具体的目標概括に関する意見等> ・新型コロナウイルス状況下での対応、大変だったと思う。学校生活が通常に戻った時点で、評価の数値が少しでも改善されたい。 ・明るく活気のある学校生活を送れていると思う。 ・毎年、先生方のご努力に感謝し、敬意を表しながら年度総括の説明をお聞きしているが、今年度も同様に拝見した。 ・コロナ禍の中、手探りの施策であったと思われる。2020年の取組結果をナレッジ(有益性の高い情報)として、次年度に活かしていただきたい。 <学校評価アンケート結果について> ・肯定的評価の数字にこだわらず、生徒が求める本質に対処アプローチしていただきたい。 ・コロナ禍の中で大変ですが、教職員のコロナ対策についての評価が低い点について、満足していくのは難しいと思うが、生徒や保護者ができることを今後も指導していただきたい。 <その他の意見等> ・教職員の皆様におかれては、ただでさえ多感な年ごろの生徒に対する教育、生活指導は大変な苦労があると思うが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止への対応も加わり、言葉では言い表せない苦労をされたと思う。皆様が心身ともに健やかであることを願うしかない。 ・生徒の皆さんについても、ただでさえ孤立化が進む現代社会において、長期の休校や部活動休止などにより閉塞感、孤独感が一層深まり、進学や就職活動などが停滞し、将来への不安感が増すなど心身ともに不安定な状況にあると思っているが、教職員の皆様の支えにより、目標を見失うことなく前に進んでいってほしい。 ・新型コロナウイルス等の影響で、ボランティア活動も制限され、生徒が十分活動できなかった。しかし、秋頃から赤い羽根共同募金の街頭募金活動、冬には除雪ボランティア活動等にご協力いただき、感謝申し上げます。次年度もよろしく願いたい。 ・この1年間、コミュニケーションの取りにくい環境となっていたが、引き続き生徒へのご指導をお願いしたい。
	2 基本的な生活習慣を身に付け、社会の一員として自覚を深める ① ルール遵守、そして個性伸長を ② 情報モラルやコミュニケーション力の体得を	・生徒間および教師間のあいさつの日常化促進 ・SNSの適正な利用指導 ・交通ルールマナー、交通安全及び公共心に関する意識の涵養 ・遅刻指導、無断アルバイト絶無に向けた指導 ・コミュニケーション能力向上のための取組実施	① B ② C	・貴重品の管理徹底、保管場所の検討 ・生徒主体となる活動の工夫 ・コミュニケーションを大切に活動の推進 ・SNSの適正使用の更なる呼びかけ	
	3 主権者意識を高めながら、危機への的確な対応をする ① メディアを活用し社会情勢に関心を ② 考えを主張し説得できる力を	・SNS等を利用した相談体制(スクールサイン)の積極的活用 ・適切な情報モラルやその有益な活用法(情報発信等)の推進 ・1学級1新聞を活用し社会情勢に関心を持たせる ・新型コロナウイルス等への適切・的確な対応	① B ② B	・1学級1新聞の更なる活用方法の研究 ・主権者としての意識の醸成 ・アルコール消費、マスク着用によるコロナ感染予防	
【2】	1 学力の充実・定着と体力の向上をはかる ① 分かるまで取組ませる粘り強さと家庭学習定着を ② 健康で健全な身体づくりを	・基礎学力の定着並びに応用力の醸成 ・家庭学習時間調査を通じた学習習慣の定着促進 ・自己の健康管理の徹底	① B ② B	・家庭学習習慣定着に向けた指導 ・委員会活動を通じた保健情報の提供	
	2 キャリア教育の充実をはかる ① 計画に基づく組織的かつ系統的な進路指導を ② 学習のつまづきを放置させない授業づくりを	・「進路の手引」や進路教材の活用、ガイダンスによる体系的な進路指導の実践(全員の進路希望達成) ・シラバス活用による計画的な学習環境の確保 ・学習会、進路指導の組織的対応 ・令和4年度入学者対応の教育内容の編成	① B ② B	・「キャリアパスポート」の内容や活用方法の検討 ・各教科における評価方法の研修 ・多様な進路をサポートするための計画的組織的指導 ・インターンシップや体験学習に代わる活動のあり方	
	3 能動的な学習(書く・話す・発表する等)の推進をはかる ① 個々の生徒を伸ばす教科指導や特別活動を ② 異なる意見に傾聴し協働して課題解決を	・課題を自らのものとして解決する力、自らの考えを主張する力の育成 ・知的好奇心に働きかける授業展開の工夫 ・各教科1名以上の授業研究による合評会を通じた授業改善	① B ② B	・課題解決型の学びについて研究していく ・学校全体での授業改善への取り組み ・探究の時間のあり方について議論していく	
	4 個に応じた支援体制の充実をはかる ① 切れ目のない教育相談を ② 特別な支援に係る生徒情報は新鮮な形で共有を	・学校適応指導委員会 年7回開催 ・学校不適応生徒に対する手立ての充実(必要に応じたケース会議の開催) ・PTA協力のもと教育相談事業 年24回実施	① B ② A	・随時ケース会議を開催、早急な支援方法の協議 ・SCとの連携強化によるメンタルサポート	
【3】	1 郷土・地域を理解する ① 地域課題発見・解決実践・成果還元の見える化を ② 地域活動への参画推進を	・地域から世界へと視野を広げて課題を見出す力の育成 ・学校と地域社会を繋ぐリーダーの育成、地域貢献ボランティア活動の推進	① B ② B	・地域課題解決策の具体的発信 ・課題探究における大学との連携	
	2 郷土・地域と連携する ① 家庭及び関係機関との情報共有を ② 地域力の活用と感謝を	・学校支援団体との連携強化、情報発信の充実 ・創立30周年記念事業に向けた準備(準備委と企画立案) ・校内外の様々な活動への自主的積極的な参加呼びかけ ・他者を思いやる心や感謝の心の醸成、一人ひとりの個性伸長 ・ボランティア活動参加推奨による地域・郷土への愛着増進	① B ② B	・各支援団体と連携した創立30周年記念の組織的準備 ・家庭・地域との協力による教育力の向上 ・ボランティア活動の積極的推進	
	3 郷土・地域等に発信する ① Webページの定期更新を ② 学校を取り巻くネットワークの拡大・充実を	・学校ホームページの定期的更新 ・外部からの意見等への丁寧な対応 ・人的ネットワークの構築	① B ② B	・ホームページ内容の更新 ・外部機関協力による生徒活動の場を増やす	

アンケート評価(回答の選択肢 a:よくあてはまる b:ややあてはまる c:あまりあてはまらない d:まったくあてはまらない e:わからない)

※以下の分析・把握では、「a」「b」を「肯定的評価」としている。

生徒	回答率は86.8%、今年度web上でのアンケートにしては、昨年より回答率が低かった。20項目中13項目が80%以上の高評価であったので、おむね本校の教育活動が生徒の実態を踏まえて行われていること、生徒がそれを受け止めていることがうかがえる。個別の項目では「本校に通うことは将来にとって意義がある」や「進路目標達成に向けた情報提供や計画的指導」において、約92%が肯定的評価であったことから、本校での活動に一定程度満足していると捉えられる。「読書に励み、視野を広げようとしている」への肯定的評価は48.8%であり、学習センター(学校図書室)を中心に読書を推進する様々な取組をなされているが、今後とも継続していく必要がある。
保護者	回収率が82.0%、20項目中11項目が80%以上の高評価であったが、昨年の高評価17項目と比べて、非常に少なくなった。特に、「PTA活動」や「教職員とのコミュニケーション」について低い評価となっていること、各回答において「選択できない」という回答が多くなっていることから、新型コロナウイルスの影響で校内に足を運ぶ機会が減少したことが大きく関係していると思われる。また、学校の様子が見えづらくないという意見が多く、各校内の生徒の様子や各種行事について、ホームページやメールを活用するなど情報提供の方法についてさらなる工夫が求められる。「本校に通うことの意義」については、高評価91.1%であり、各生徒が自分の能力を伸ばすべく生活できているものと考えられる。
教職員	授業研究やICT機器の整備について最重要課題と位置づけ、率先して研修に励む体制づくりやICT活用などについて、さらなる工夫が求められる。「学校行事の精選」や「総合的な探究の時間」については継続的に検討し、より効果的上がる教育活動となるよう研究していく必要がある。特に「総合的な探究の時間」については、進路目標と絡めた計画を望む声があり、より良い明新館を作り上げるための起爆剤となるように活用していきたい。新型コロナ対応や保護者への情報提供に関して不十分と捉えている教員が一定数いるため、改善点を洗い出し更なる検討・対応をしていかなければならない。